

令和5年10月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 柿沼太郎

国際島嶼教育研究センター第234回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第234回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日 時：令和5年11月6日（月）16時30分～18時
会 場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）
WEB：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

軽石漂着という社会問題を自然科学の視点で教材化した取り組み
丸谷 由（一般社団法人ネコのわくわく自然教室）

【要旨】

この発表では、軽石の大量漂着という社会問題化した自然現象について、自然科学及び環境教育の視点で学ぶ教材と講座を、民間の教育団体と地球科学の専門家が連携し、短期間の内にアウトリーチ活動につなげた事例を紹介します。

2021年10月に琉球列島を中心とした地域で起きた軽石の大量漂着（福岡ノ場2021噴火による）は、多くの人の記憶に残る地学イベントとなりました。遠く離れた海底火山からもたらされた軽石は、わずか数日で沿岸の風景を変え、海上交通や漁業、観光業に大きな影響をもたらし、深刻な社会問題となったのは記憶に新しいところです。

このような軽石漂着は、ひとつの地域では数十年に一度という希な現象であり、国内においても近代化以降初めて観測された規模のものでした。そのため災害としての側面がある一方、地学的な自然の営みを直接観測できる貴重な機会でもありました。

子ども向けの自然学習教室を展開する当団体では、一般にはあまり知られていなかった「軽石漂着」という現象について自然科学の視点と、環境教育の視点から学びにつなげる事を目的に、漂着直後から教材作りと講座開催に取り組みました。地学分野の専門家と連携して漂着後1ヶ月で書籍の発行、軽石を題材にした10種類を超える教材の開発、地域の学校や自治体と連携したプロジェクト実施など、漂着後1年半で80回を超える教育事業を開催したプロセスを紹介します。

【対面式でのご参加（要登録）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて11月2日（木）までにお知らせください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて11月2日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：11月2日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：井手元）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：生）

オンライン（Zoom）（申込期限：11月2日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）